

10 年後に向けて～子どもを持つ親からのメッセージ～

平成 21 年 1 月に、乳幼児健診を受診に来た保護者の方（主に母親）にインタビューを行い、子育てや家庭を取り巻く様々な問題について話をうかがいました。

少子化が進む中、子どもを育てやすいまちにしていくために、男女共同参画をどのように進めるべきなのでしょう。

【家庭について】

自分（妻）が病気になると家事がストップしてしまいます。夫が家事をしてくれることはないです。

「家事は女、仕事は男」と決まっているような感じます。

家事全般は自分（妻）がやっています。夫は外で働いているから、自分（妻）は家にいるのが当たり前と思っています。男女が逆になったらどうなるのでしょうか…。

家庭生活で男女の差を感じるのとはどのようなことですか？

家事全般は自分（妻）がしていますが、休みには夫が手伝ってくれます。夫と逆になった時、自分は仕事を見つけれないだろうし、生活していくために稼げない。この状態はお互いの役割として認識しているので、男女の差は感じません。

夫が仕事から帰ってくると家事を手伝ってくれるので男女の差は感じません。

子育て家庭の形態は、妻が子育てと家事を専ら行っている家庭、夫がたまに家事を手伝う家庭など、様々です。また、「男は仕事、女は家庭」という固定的な認識について、「お互いの役割」と考えている人もいます。本当に豊かな家庭生活を送るために、男女の性差ない働きが必要ではないでしょうか。

【子育てについて】

子どもがぐずった時は母親でないとあやせない。夫には無理です。

最初、夫は子育てについて、何をやってよいか分からない様子だったので、やって欲しいことをこちらから言いました。今では普通に子どもの世話をしています。

育児において、男女の差を感じるのはどのようなことですか？

夫はおむつ替えに抵抗があるみたい。また、母乳だから授乳は自分しかできない。夫は、自由でいいなと思っています。

子どものために男の人は休暇がとりにくいでしょう。自分が働きだした時、子どもが病気をしたら自分ばかりが休むことになると思います。

子どもに影響するまで仕事に出ようと思いません。内職でもいいです。子育てに専念したいと思うので、男女の差というものを感じませんね。

【男女の差がない社会の実現について】

社会全体が考え方を変えていくことではないでしょうか。

まずは夫に家事を手伝ってもらい、それから、家事がひとりでもできるようになればと思います。

夫と自分（妻）が順番で、仕事や家事・子育てに取り組めたらいいと思います。

男女の差をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか？

夫がもっと家庭に目を向けることが必要。市民講座で、家事のできない夫を対象に、ご飯の炊き方、みそ汁の作り方など初歩的な家事を習える講座をやるとよい。男性が、家事への理解を深めることが重要だと思います。

長い間、子育ては女性の役割であると考えられてきました。それは子育てをしている母親自身も持っている考えだったかもしれません。今回のインタビューの中でも「夫には育児は無理」といった声も聴かれました。また、「夫は仕事、妻は家事・育児」という男女の固定的な役割を正しいと認識している女性も存在します。しかし、少子・高齢社会が到来し、経済情勢が不安な現代にあっても、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することが重要なことではないでしょうか。

男性でも家事や子育てに参加したい人は大勢います。また、社会に出たいと願望する女性も大勢います。男性が子育てを開始した家庭もあります。今回のインタビューでは、関市の様々な子育て家庭の姿が見えてきました。男女は、決められた固定的な役割分担の中ではなく、互いの個性を尊重しながら協力し合って家庭を築くことができます。そのことに気づくことができ、男性も女性も同じように家事・育児に参加し、同じように社会へ参加することができるようになった時、このプランがめざす男女共同参画社会が実現します。